平成28年度学校経営計画　　国立市立国立第五小学校

教育目標	○学びあう子(本年度重点目標)　助けあう子　きたえあう子

学校経営の基本理念	目指す学校像	教師の基本姿勢
「関わりの中で高め合う児童の育成」 一人一人の子供たちに、「自立」と、「自律」の力を身に付けさせ、相互依存でない、真に『学びあい、助けあい、きたえあう』子供たちを育てていく。そして、そのために教職員自らが互いに切磋琢磨し、子供たちと共に高め合う集団となる。	（１）児童が目を輝かせて登校し、真剣に学び合い、友だちや先生と仲良く元気いっぱい過ごす笑顔あふれる学校《子供の姿》 （２）全教職員が教育公務員としての自覚と使命感、誇りをもち、共通の目的に向かって、創造的に協働し、互いに切磋琢磨して人間性と専門性を磨き合う学校《教職員の姿》 （３）保護者や地域社会との相互理解、連携を図り、学校のもつ教育力を家庭・地域社会のために積極的に生かし、共に子どもを見守り、育てていく学校《保護者・地域からみた学校の姿》	（１）授業力の向上を常にめざす。 （２）信頼ある開かれた学校づくりに努める。 （３）意識の変化に対応できる学校づくりに努める。 （４）子供の世界や感性を尊重する。 （５）今あるものを常に見直し、改善につなげる組織である。

◇　専科教員を含め全教員で取り組む　　■　全教員で取り組むが成果確認は担任が行う　　無印　担任が取り組む

領域	中期経営目標(カッコの数字は経営方針の番号)	短期経営目標	目標達成のための方策	成果指標	成果確認方法(中間10月最終2月)
学びあう子［確かな学力の向上（本年度重点目標）］	○基礎的な知識および技能の定着（③） ○身に付けた知識及び技能を活用する力の育成（③）	①■正しい鉛筆の持ち方を身に付けた児童を育成する。	○毎月第１週目は「えんぴつの１週間」とし、「OKマークをくるっとまわしてなかゆびまくら」を全学級で確認させ、意識の向上を図る。 ○正しい鉛筆の持ち方ができない児童には、補助具を貸し出し、正しい持ち方を定着させる。 ○正しい鉛筆の持ち方を心がけるよう、日ごろから声をかける。	A　身に付いた児童が、１０%以上増加 B　身に付いた児童が、５～１０%増加 C　身に付いた児童の増加が5%未満	教師の観察による評価
		②学年配当の漢字の読み書きと基本的な計算の仕方を身に付けた児童を育成する。	○ベーシックドリル等を活用しながら、前学年までに配当されている漢字の読み書き、計算の練習をさせる。 ○漢字の読み・筆順・熟語の確認・繰り返し書き取り練習を毎日取り入れ継続する。	A　国語・算数の平均正答率が、それぞれ85%以上 B　国語・算数の平均正答率が、それぞれ80%以上 C　国語・算数の平均正答率のいずれかが80%未満	ベーシックドリルの平均点で評価
		③◇自分の思ったことを最後までしっかり言える児童を育成する。(言語)	○発問を工夫し、全員が挙手できるような場面を授業に取り入れる。 ○教師が範を示しつつ、子供の発言を最後まで聞く姿勢をもつ。 ○話型を各学級で掲示し、語尾を意識して発言できるよう指導していく。 ○「今月の詩」を提示して、全校朝会などで群読する。	A　できるようになった児童が70%以上 B　できるようになった児童が60%以上 C　できるようになった児童が60%未満	教師の観察による評価
		④問題解決に対する見通しをもち、根拠を立てて仮説を記述できる児童を育成する(３，４年)(言語) 問題の解決を図り、学んだことを振り返り考察を記述できる児童を育成する(５，６年)(言語)	○仮説 ①文型（話型）を用いて表現させる。　②記述の観点を与える。 →学んだことを活用し、思考力・判断力・表現力を高めさせる。 ○考察 ①記述の観点を与える。　②記述した文章を友達と交流させる。 →学んだことを振り返り、思考力・判断力・表現力を高めさせる。	A　８０%以上の児童が教師設定基準を達成(中) A　５５%以上の児童が教師設定基準を達成(高) B　７５%以上の児童が教師設定基準を達成(中) B　５０%以上の児童が教師目標基準を達成(高) C　教師設定基準を達成した児童が７５%未満(中) C　教師設定基準を達成した児童が５０%未満(高)	ノート分析による教員評価
助けあう子［豊かな心の育成］	○自己肯定感をもち、他人も大切にする児童の育成（①） ○地域・学校を愛する心をもった児童の育成（④） ○社会の一員であるという自覚と規範意識をもった児童の育成（⑤）	⑤◇仲間外れや相手の嫌がる言葉遣いなどのいじめをしない児童を育成する	○年３回「いじめアンケート」と年２回ふれあい月間のアンケートを実施し、聞き取りを丁寧の行い、全職員で予防策・早期発見に努める。 ○人権月間に、ビデオ・DVD教材を活用し、自分や他の命を大切にしようとする児童の態度を育む。 ○５年生全員とスクールカウンセラーの面談・給食交流を実施しする。また、相談室便りを発行し、相談しやすい環境を整える。	A　いじめをしない児童が１００% B　いじめをしない児童が」９０%以上 C　いじめをしない児童が」９０%未満	児童観察・聞き取りによる教員評価 児童アンケートによる自己評価
		⑥■自分を大切にし、自分に自信がもてる児童を育成する（オリ・パラ）	○自尊感情アンケートを実施し結果を基に個々に合った自信の持たせ方を教職員全員で共有する。 ○児童の表現活動(文章・発表・作品・演奏・身体等)を交流する場を設け、友達のよさを伝え合い認め合い、互いを大切にしようとする態度を育む。 ○日頃から、保護者と密に連絡を取り合い、児童のよさや、つまづきを共有し、児童に自信をもたせるようにする。	A　自己受容評価１点台の児童が０% B　自己受容評価１点台の児童が１～１５% C　自己受容評価１点台の児童が１６%以上	児自己受容アンケート調査による自己評価 児童観察による教員評価
		⑦◇すれ違った先生や外部の方に、適切な（明確な声・一度あいさつした人には黙礼など）挨拶ができる児童を育成する。(言語)	○各学級で年間通して取り組む「あいさつ宣言」を決め、目標達成に向け、すすんであいさつをする児童の育成に努める。 ○６年生のあいさつ当番の活動を活発にし、全校児童の手本となるように育む。 ○相手に聞こえる声で、はっきりとした言葉であいさつをする態度を育てる。	A　９５%の児童が身に付いている B　９０%の児童が身に付いている C　身に付いている児童が９０%未満	児童観察による教員評価 児童アンケートによる自己評価
鍛え合う子［たくましい体の育成］	○基礎的な体力の向上（④） ○心身の健康づくりに努力する児童の育成（④）	⑧基礎的な体力の向上に努める児童を育成する。(オリ・パラ)	○年間１５回、木曜日の中休みにﾊﾟﾜｰｱｯﾌﾟﾀｲﾑを設定し、クラスごとに、体力向上を図るための運動に、順次取り組ませる。 ○体育委員会による「ﾊﾟﾜｰｱｯﾌﾟｲﾍﾞﾝﾄ」を学期に一回開催し、体力向上を図った運動を、ゲーム感覚で楽しみながら行う。 ○教室にハンドグリップなどの簡単な器具を置き、握力や手首の強化を児童に促す。 ○各クラスで１年間を通して行える体育的活動を「一学級一実践」として、設定する。 ○柔軟性を高めるために、「くにごストレッチ」を体育の準備運動に取り入れる。	A　休み時間に外遊びをする児童が９５%以上 B　休み時間に外遊びをする児童９０%以上 C　休み時間に外遊びをする児童９０%未満	児童観察による教員評価 児童アンケートによる自己評価
		⑨◇自分の体や健康について意識し,健康な生活をおくる努力をする児童を育成する。(オリ・パラ)	○体力向上に関するお便りや保健だよりにて、早寝早起きなどの大切さを伝え、保護者への意欲啓発を行う。 ○養護教諭による保健指導を通して、自分の体への関心を高め、健康の大切さを理解させる。 ○健康診断の結果、季節など、児童の実態に応じた健康課題を解決するための活動を保健・給食委員会で取り組んでいく。	A　給食前に「あわあわ手洗い」をする児童が１００% B　給食前に「あわあわ手洗い」をする児童が９０%以上 C　給食前に「あわあわ手洗い」をする児童が９０%未満	児童観察による教員評価 児童アンケートによる自己評価
		⑩■好き嫌いをしないで給食を食べる児童を育成する。	○校長講話で、食についての話をし、残菜減量についての意識啓発する。 ○給食指導目標を基に、各学級で、声かけをし、残菜減量に向け声かけをする。 ○食育月間で、発達段階に応じた食育指導を行う。 ○児童の実態に応じた残菜減量のための活動を保健・給食委員会で取り組んでいく。	A　給食を自分で食べきることができる量に調節し、完食する児童が１００% B　給食を自分で食べきることができる量に調節し、完食する児童が９０%以上 C　給食を自分で食べきることができる量に調節し、完食する児童が９０%未満	給食週間に配布するカードで教員が評価